



JARMeC  
Japan Animal Referral Medical Center  
日本動物高度医療センター

# 2023年3月期第2四半期決算説明資料

株式会社日本動物高度医療センター（東証グロース：6039）

2022年11月18日



## I 決算の概要

## II 市場動向および中期展望



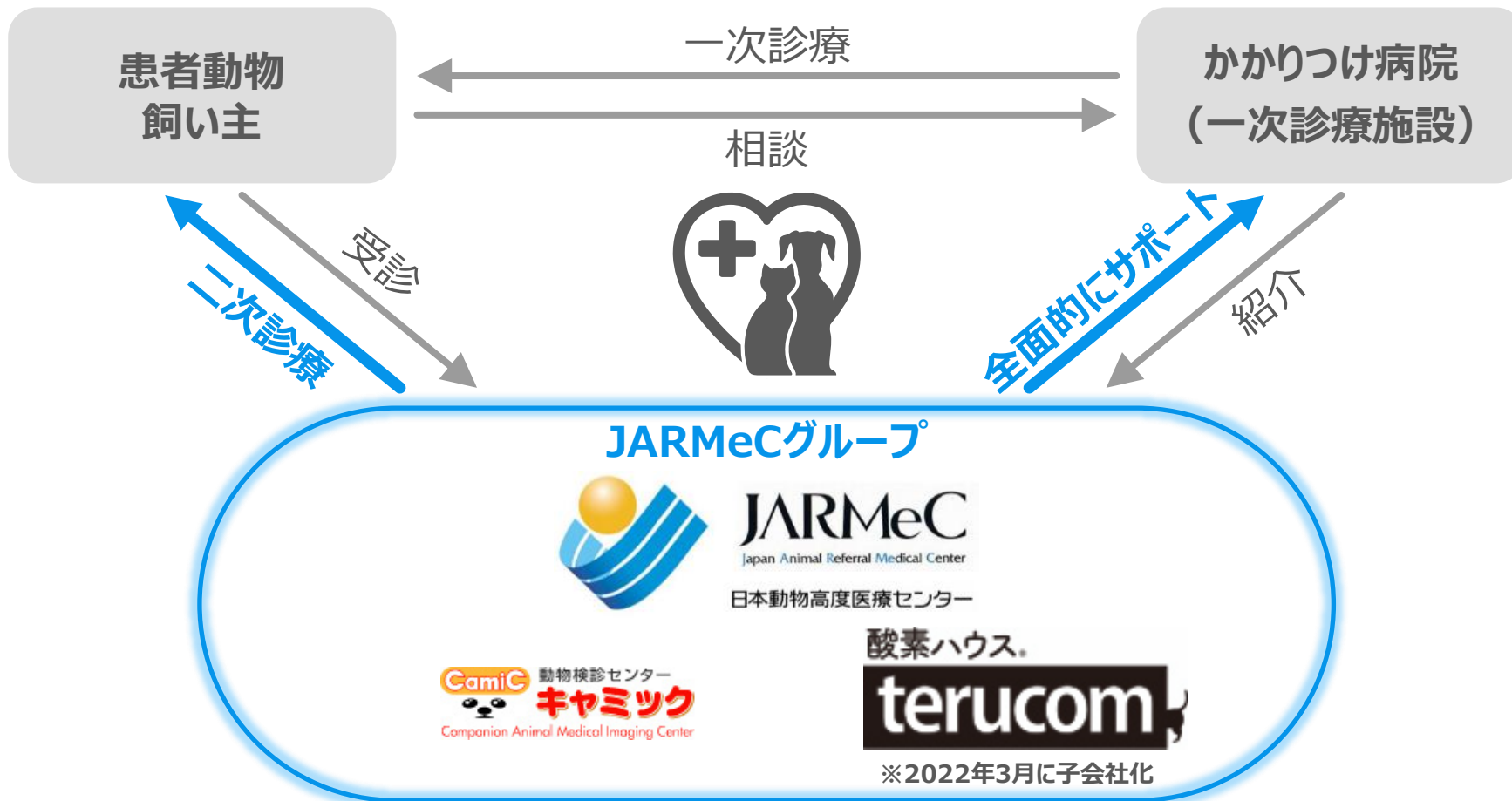


JARMeC  
Japan Animal Referral Medical Center  
日本動物高度医療センター

# I 決算の概要



## 当社のビジネスモデル



- ✓ 「ペットに家族と同じように高度な医療を受けさせたい」というニーズ
- ✓ 二次診療を中心とした事業により、一次診療施設を全面的にサポート

# テルコム(株)子会社化の意義と目的

- 2022年3月18日にテルコム(株)\*全株式を取得し、子会社化
- 当社グループの「二次診療サービス」に同社の「全国規模の飼い主、一次診療施設との接点」が融合し、中長期的により多くの飼い主に高品質な動物医療サービスが提供できることを企図



JARMeC  
Japan Animal Referral Medical Center  
日本動物高度医療センター

動物にも人間と同じような  
高度な医療を受けさせたい

**二次診療サービス**



酸素ハウス。

**terucom**

酸素ハウスを必要とするすべての方に、  
もっと安心を届けられるように。

**全国規模の  
飼い主、一次病院との接点**

会社名	テルコム株式会社
事業内容	動物の在宅医療に必要な「酸素ハウス」の貸与・販売を全国規模で行う
製造品目	動物用酸素濃縮器 酸素濃度計 ケージ内ガスモニター 麻酔器用酸素濃縮器 ケージ
設立	2002年8月27日
売上高	396百万円 (2023/3期2Q)



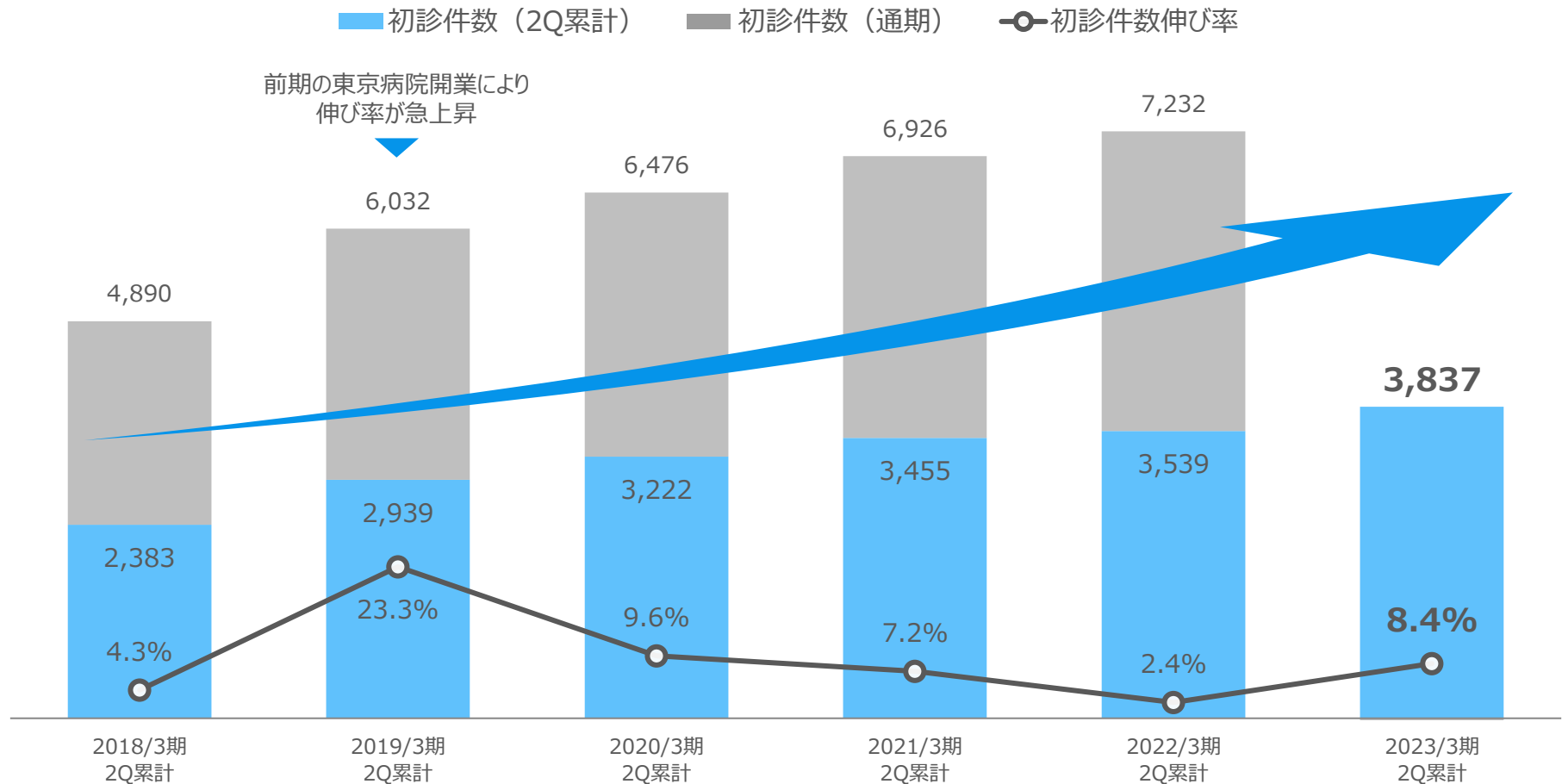
# 2023年3月期第2四半期 決算概要

- 第2四半期累計期間での過去最高売上を更新
- 2023年3月期第1四半期より、テルコム(株)の業績を連結対象
- 既存サービス（二次診療・画像診断等）においても、前年同期比5.7%増収

(百万円)	2022/3期			2023/3期				
	2Q累計実績	進捗率	通期実績	2Q累計実績	前年同期比		進捗率	通期計画
売上高	1,437	48.2%	2,979	<b>1,915</b>	+477	<u>+33.3%</u>	49.6%	3,860
二次診療サービス	1,170	48.1%	2,434	<b>1,283</b>	+112	<u>+9.6%</u>	—	—
画像診断サービス	260	50.8%	512	<b>230</b>	▲29	▲11.4%	—	—
健康管理機器レンタル・販売サービス	—	—	—	<b>396</b>	—	—	—	—
営業利益	182	41.5%	439	<b>293</b>	+110	<u>+60.8%</u>	54.8%	535
経常利益	186	42.5%	438	<b>295</b>	+109	+58.5%	54.8%	540
親会社株式に帰属する 四半期純利益	127	44.4%	286	<b>197</b>	+70	+55.4%	54.2%	365
1株当たり 四半期純利益	53.4円	—	120.9円	<b>85.0円</b>	+31.5円	+59.0%	—	156.7円
初診件数	3,539件	48.9%	7,232件	<b>3,887件</b>	+298件	<u>+8.4%</u>	51.5%	7,450件

# 事業KPI：初診件数（紹介数）は過去最高へ

- 初診件数は上半期での過去最高件数を更新し、伸び率が8.4%に上昇
- 動物医療ニーズは引続き堅調

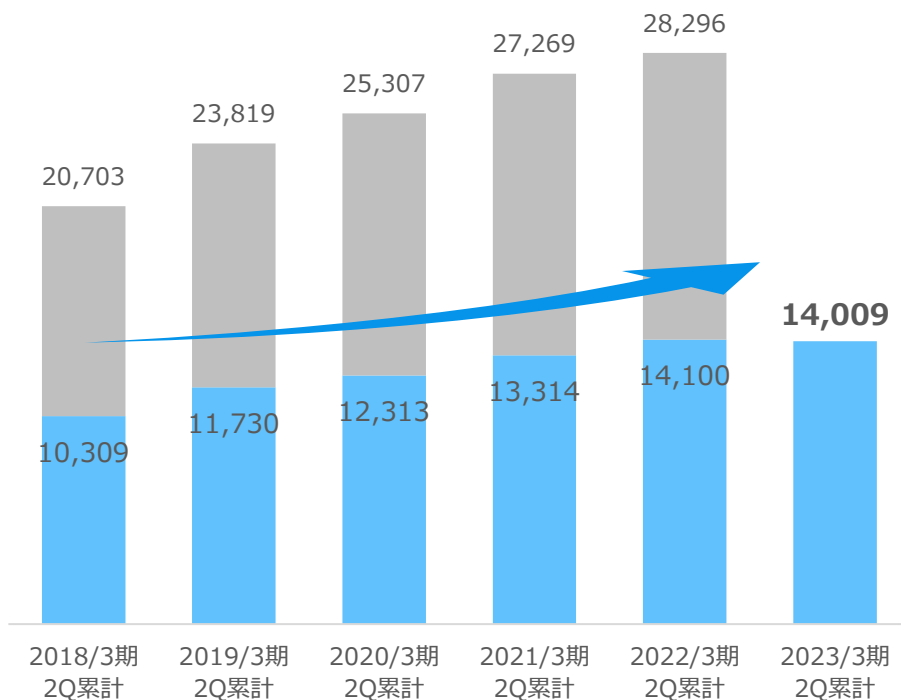


# 事業KPI：総診療件数、手術件数の推移

- 総診療件数は再診件数の影響を受けて横ばい
- 手術件数は再び増加基調に

### 総診療件数の推移

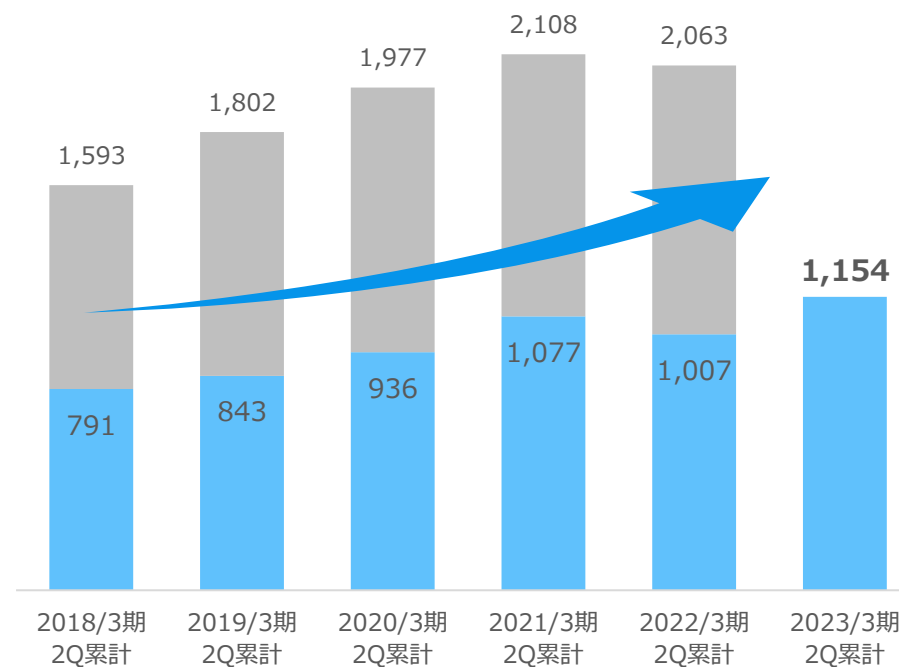
■ 総診療件数（2Q累計） ■ 総診療件数（通期）



注：総診療件数は初診と再診の合計数

### 手術件数の推移

■ 手術件数（2Q累計） ■ 手術件数（通期）



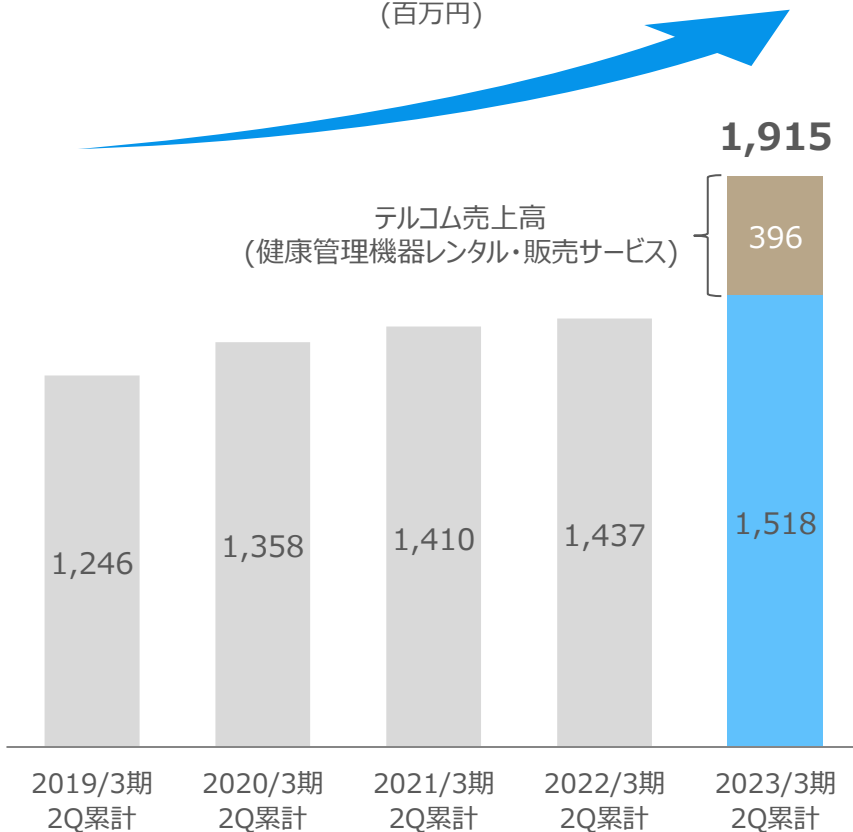


# 買収効果で業績拡大が加速

- 売上高は、テルコム(株)の買収もあり、動物医療業界における総合的企業に向けて着実に拡大
- 営業利益は、利益率の高いテルコム(株)も寄与し、再び上昇基調に転じる

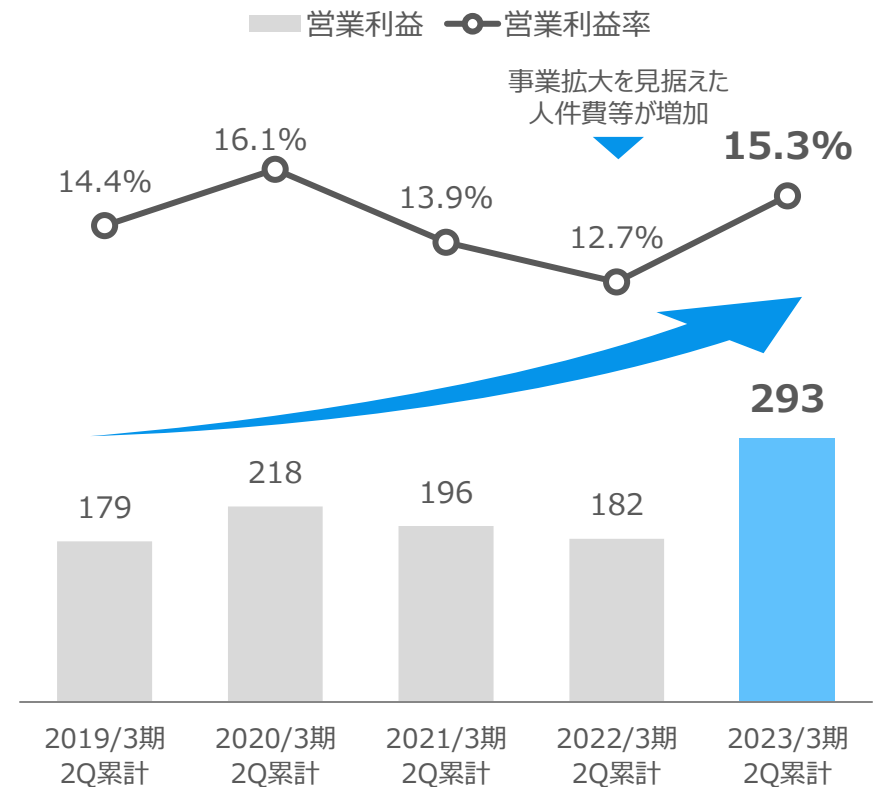
### 売上高の状況

(百万円)



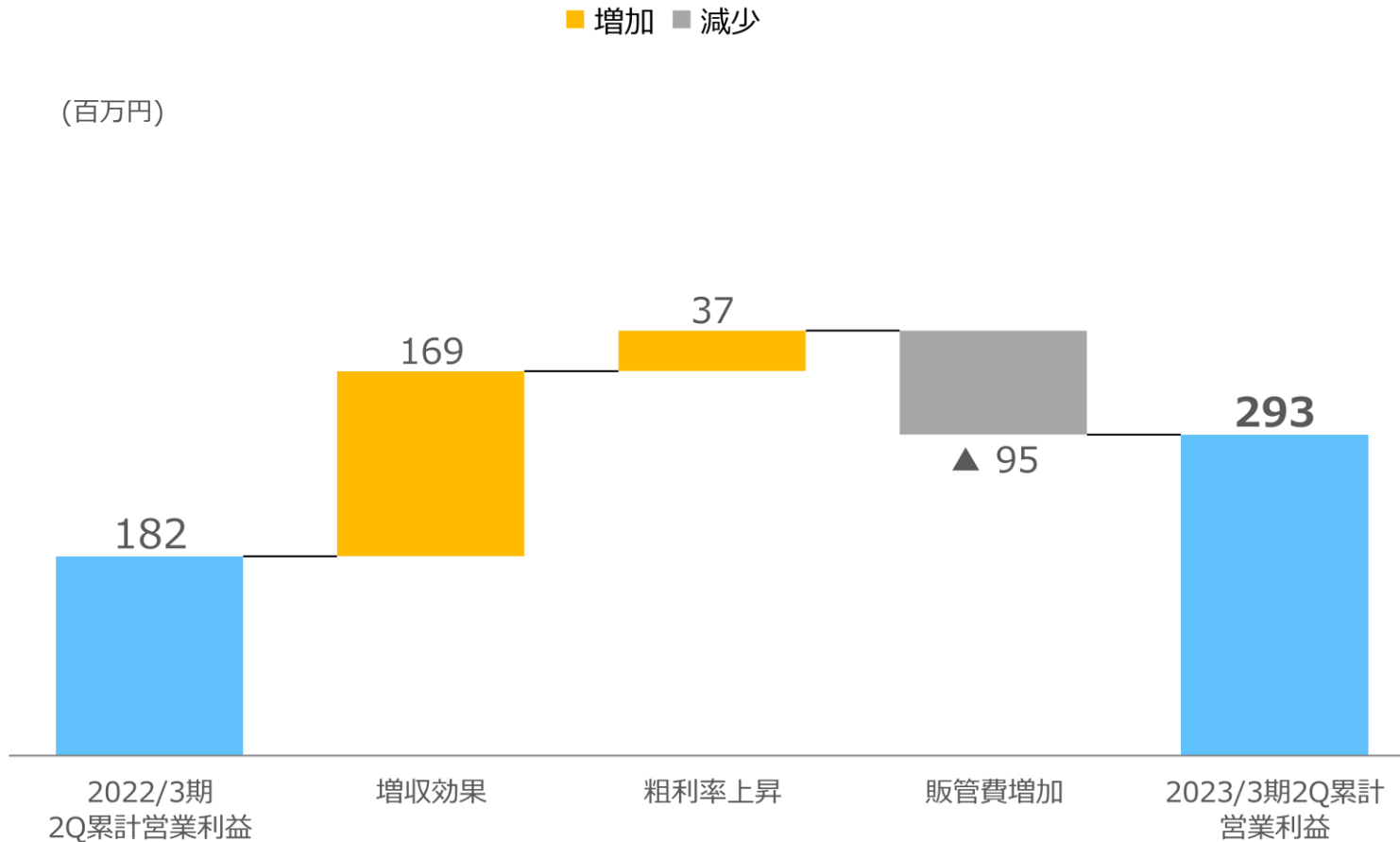
### 営業利益・営業利益率の状況

(百万円)



# 営業利益増減要因

- 主にテルコム(株)買収による増収と粗利率の改善により、販管費の増加分を吸収。前年同期比1億10百万円増益



# バランスシート状況

- 有利子負債が減少し、有利子負債依存度は52.6%へ改善
- 株主資本は前期末比1億98百万円増加し、自己資本比率は38.2%へ上昇

(百万円)	2022/3期	2023/3期2Q	前期末比
流動資産	1,539	<b>1,570</b>	+30
現預金	1,068	<b>1,152</b>	+83
売掛金	228	<b>246</b>	+17
固定資産	5,427	<b>5,519</b>	+92
有形固定資産	4,707	<b>4,686</b>	▲21
総資産	6,966	<b>7,089</b>	+122
負債	4,456	<b>4,380</b>	▲76
有利子負債	3,921	<b>3,729</b>	▲192
純資産（株主資本）	2,509	<b>2,708</b>	+198
負債純資産合計	6,966	<b>7,089</b>	+122

有利子負債依存度は  
56.3%から52.6%へ改善

自己資本比率は  
36.0%から38.2%へ上昇

# キャッシュフローの状況

- 営業CFは、前年同期比1億95百万円増加。増益が主として寄与
- フリーCFは、1億41百万円増加し、2億80百万円でポジティブ

(百万円)	2022/3期 2Q累計	2023/3期 2Q累計	前年同期比	主な要因
営業CF	245	<b>440</b>	+195	
税金等調整前 四半期純利益	185	<b>295</b>	+110	営業利益増益
減価償却費	112	<b>193</b>	+81	テレコム買収に伴う減価償却費が増加
投資CF	▲106	<b>▲159</b>	▲53	
有形固定資産取得	▲88	<b>▲143</b>	▲54	テレコムによる有形固定資産取得
FCF	138	<b>280</b>	+141	
財務CF	▲269	<b>▲197</b>	+72	長期借入金の借入
現金同等物の期末残高	983	<b>1,052</b>	+68	

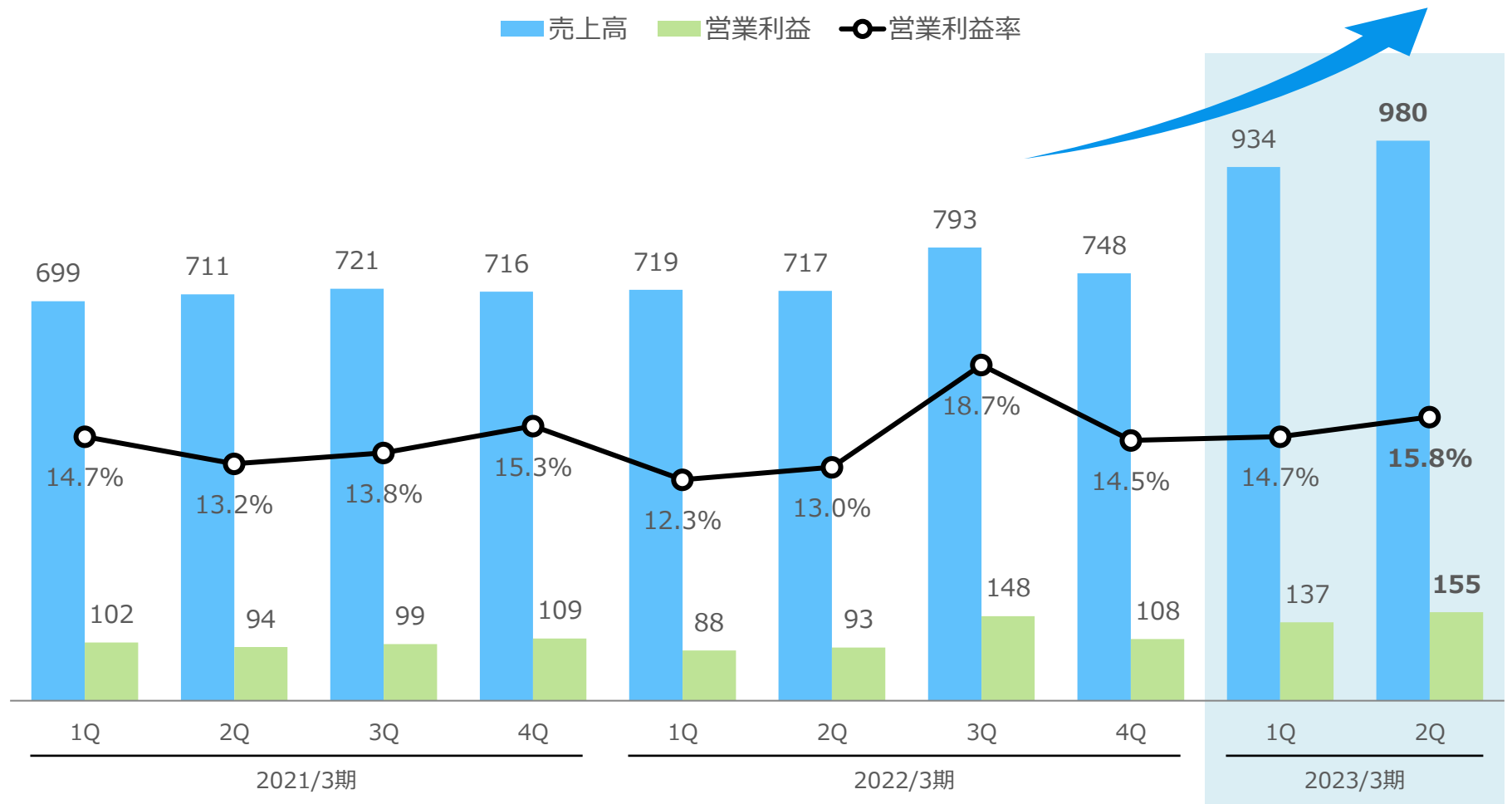
# 2023年3月期の見通し

- 順調な進捗のため期初からの変更はなし
- 一次診療施設とのコミュニケーション強化を継続し、初診件数増加を図る

(百万円)	2022/3期		2023/3期				
	実績	構成比	2Q累計 実績	通期計画	構成比	前期比	
売上高	2,979	100.0%	<b>1,915</b>	<b>3,860</b>	100.0%	+880	+29.6%
営業利益	439	14.7%	<b>293</b>	<b>535</b>	13.9%	+95	+21.8%
経常利益	438	14.7%	<b>295</b>	<b>540</b>	14.0%	+101	+23.1%
親会社株主帰属 当期純利益	286	9.6%	<b>197</b>	<b>365</b>	9.5%	+78	+27.2%
初診件数	7,232件	—	<b>3,837件</b>	<b>7,450件</b>	—	+218件	+3.0%

# (ご参考) 四半期決算 業績推移

- 営業利益率は、2022/3期3Qの一時的な急上昇はあるが、全体的に上昇基調を維持
- 下期以降についても、想定通りの進捗を見込む





JARMeC  
Japan Animal Referral Medical Center  
日本動物高度医療センター

## Ⅱ 市場動向および中期展望



- ① 拠点の展開と連携病院数の拡大
- ② 人材確保と業務効率化
- ③ 事業の多角化と協業加速

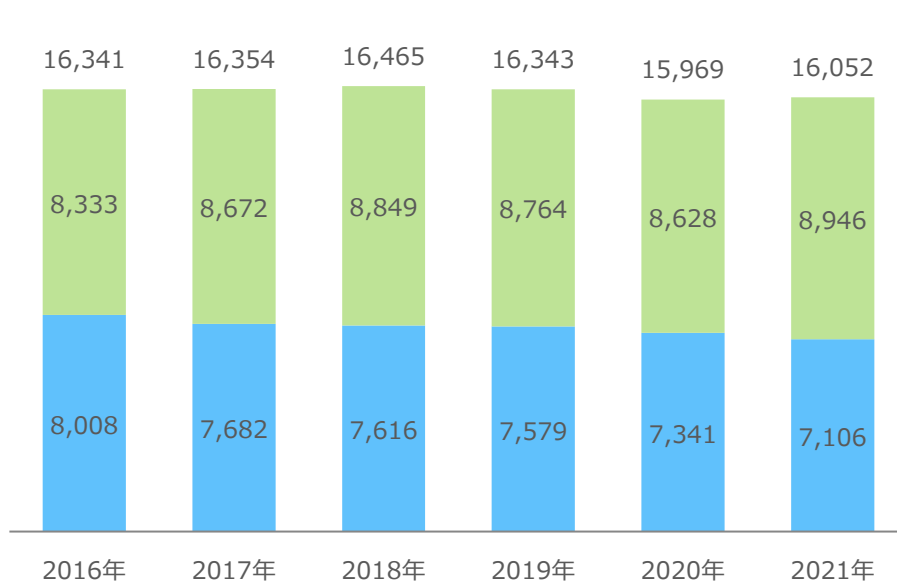


# 業界環境：新規猫飼育頭数が増加し、診療増加に期待

- 犬の飼育頭数は依然として減少傾向にあるが、世話のしやすさやマンションでも飼育可能等の理由から高齢層及び若年層を中心に猫の飼育頭数は緩やかに増加。犬猫飼育頭数全体では前年比で微増
- 一方で、新規犬猫飼育頭数はここ2年間で大幅に増加。新型コロナを契機に猫飼育の需要が増加

## 犬猫飼育頭数

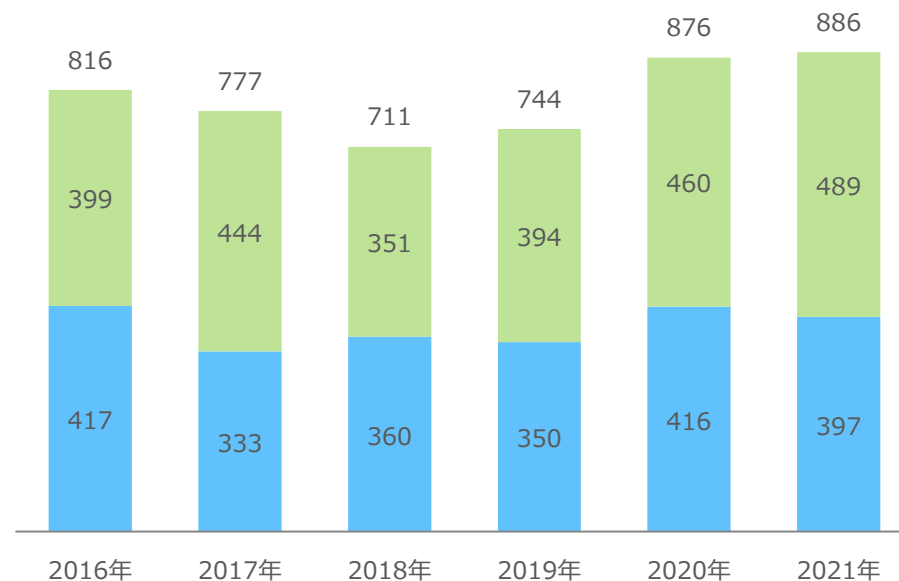
■ 犬飼育頭数 ■ 猫飼育頭数 (千頭)



## 新規犬猫飼育頭数\*

\*統計、調査データ算出の1年前（1年以内も含）から飼い始めた人を新規飼育者とし、新規飼育者に飼われ始めた犬猫の頭数

■ 新規犬飼育頭数 ■ 新規猫飼育頭数 (千頭)

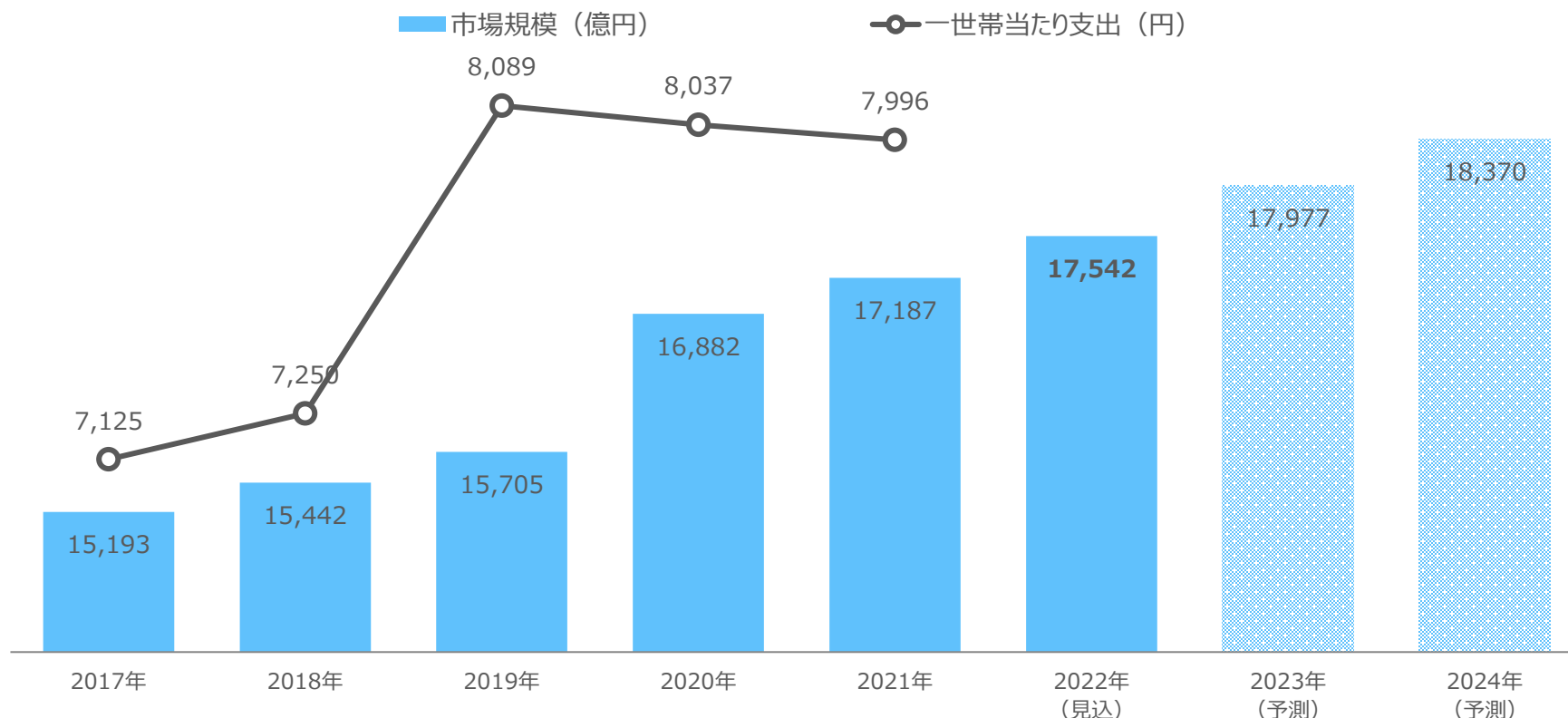


# 順調に拡大するペット関連市場

- 人口減少や少子高齢化の懸念はある一方、ペットの家族化により、飼い主の動物医療に対する多様化・高度化要請は増加
- ペット医療やペット保険等ペットビジネスの付加価値化、裾野が拡大し、ペット関連総市場規模は年々拡大傾向

## ペット関連総市場規模\*と一世帯当たり動物病院支出額

\*ペット関連総市場：ペットビジネスをフード市場、用品市場、生体市場、その他（ペット周辺サービス市場）として捉えた際のペットビジネス市場全体



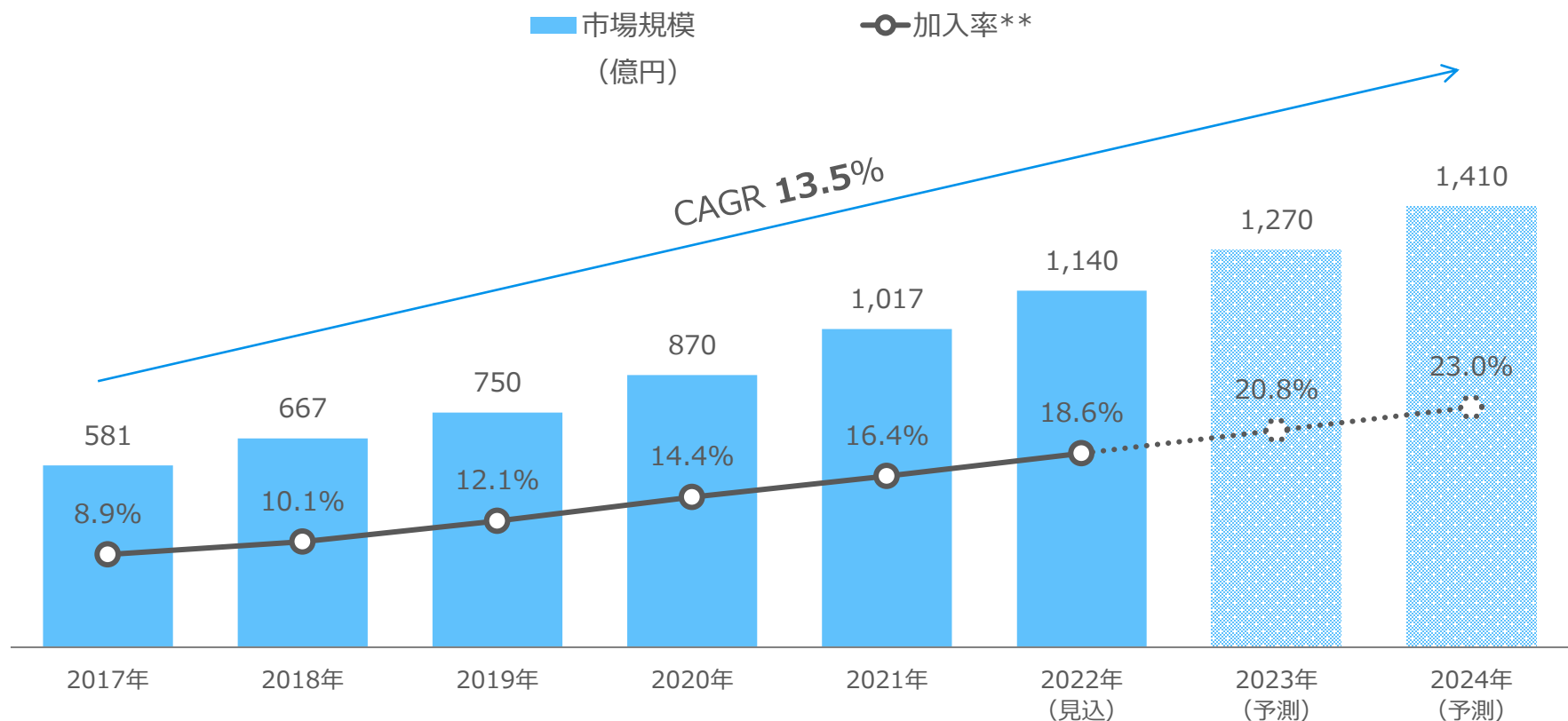
出所：矢野経済研究所「ペットビジネスマーケティング総覧2022年版」、総務省「家計調査」

Copyright© JARMeC All Right Reserved.

# ペット保険市場は確実に成長

- ペット保険の市場規模は年平均13.5%拡大の見通し
- 加入率は年々高くなっているも、欧米諸国\*に比べると低く、今後の市場拡大の余地は大きい
- ペットへの健康意識の高まりなど、ペット保険により高額な治療費を払う飼い主が増加すると想定

ペット保険市場規模と加入率



\*約100年のペット保険の歴史があるスウェーデンでは加入率50%、約70年の歴史があるイギリスでは25%程度の加入率

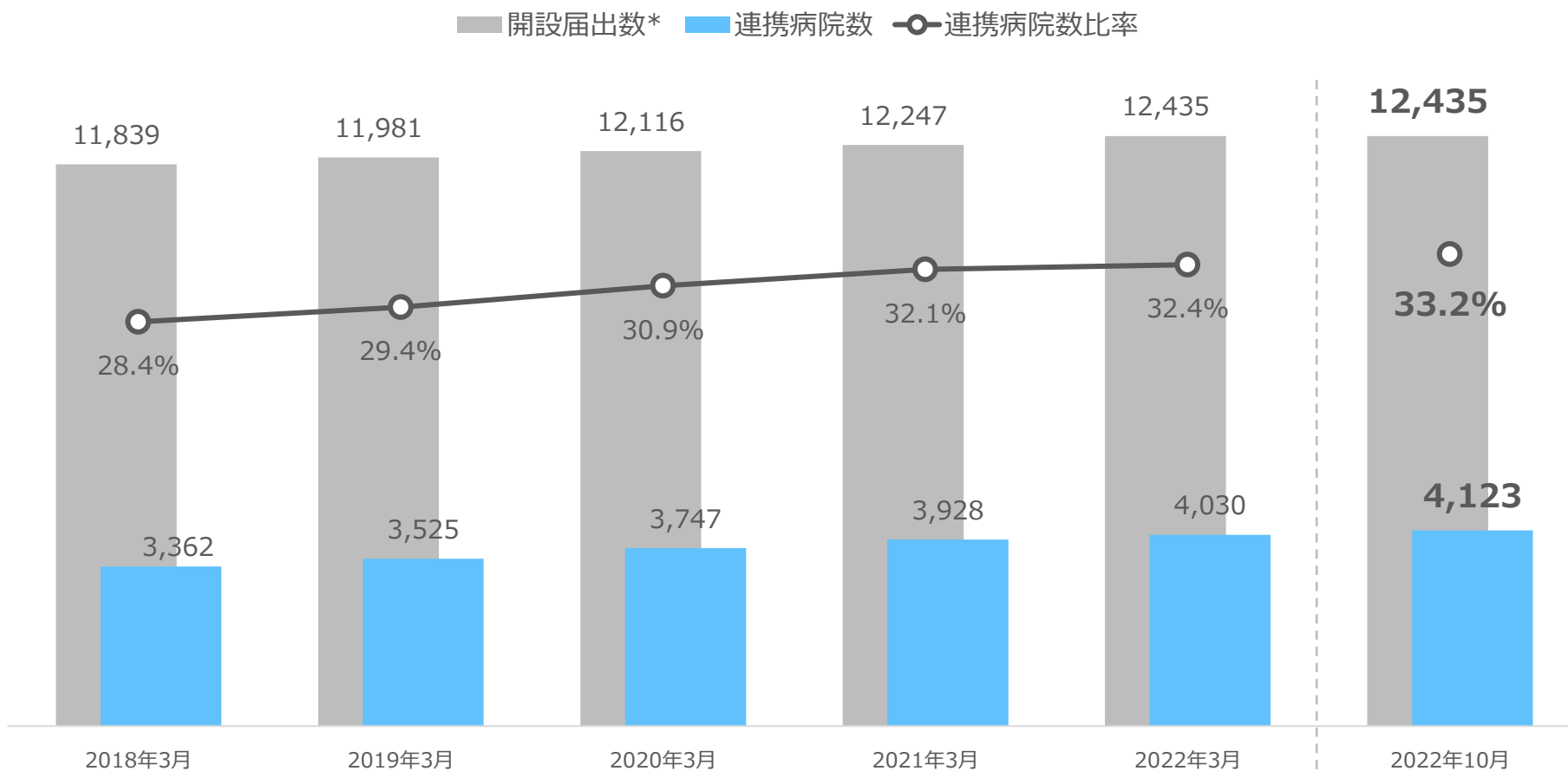
\*\*犬猫飼育頭数およびペット保険契約件数を元に算出

出所：富士経済「2022ペット関連市場マーケティング総覧」  
矢野経済研究所「ペットビジネスマーケティング総覧2022年版」  
(注) 一部企業の見直しに伴いデータを遡って修正

Copyright© JARMeC All Right Reserved.

# 連携病院数は、全国4,123施設に

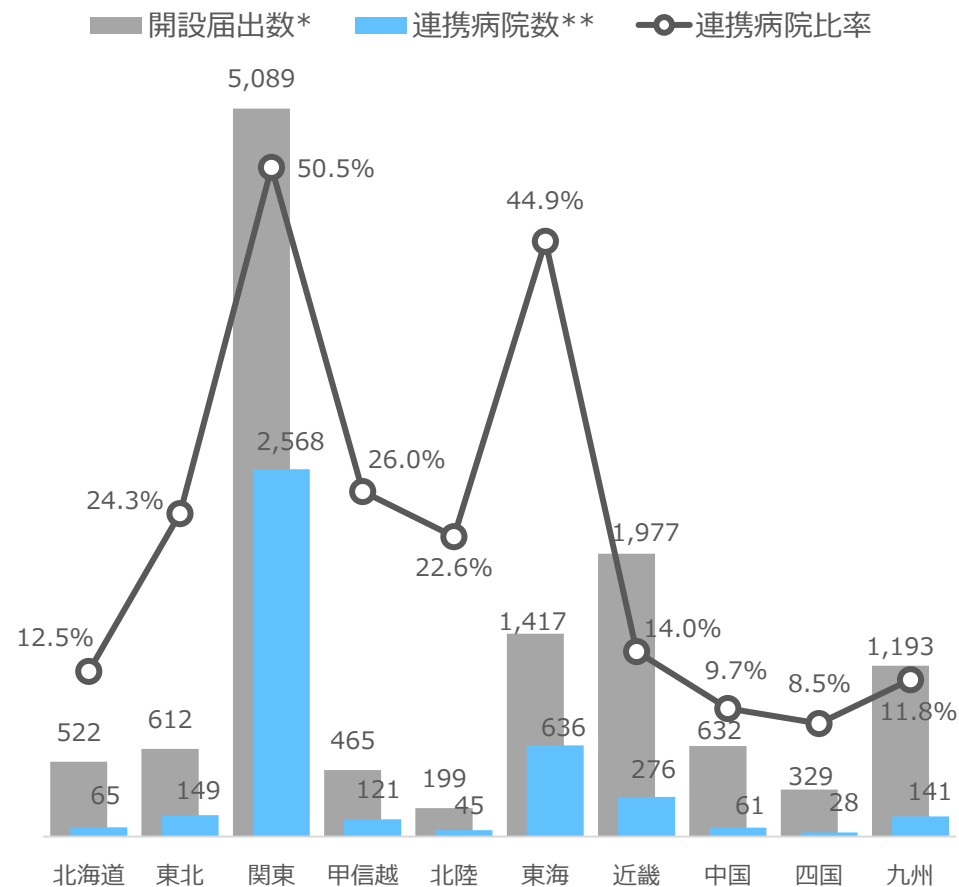
- 連携病院数は、開設届出数を上回る勢いで年々着実に増加
- 2022年10月末時点で全国4,123施設と連携し、連携病院数比率は33.2%まで上昇



\*開設届出数は農林水産省（令和3年12月末時点の小動物診療施設の件数）

# 拠点の展開：大阪病院は、開院へ順調に進捗

- 当社4番目の拠点として、2022年1月に大阪病院の建設に着工。2023年2月の完成を見込む
- 大阪病院開業により、関東、東海エリア同様に関西エリアを中心に連携病院比率の引き上げを計画
- 全国主要都市に施設の展開を積極的に推進中



\*開設届出数は農林水産省（令和3年12月末時点の小動物診療施設の件数）

\*\*連携病院数は2022年9月末時点の件数

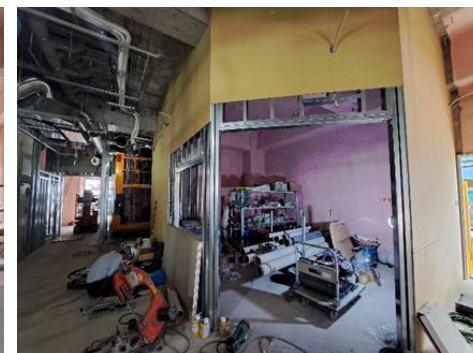
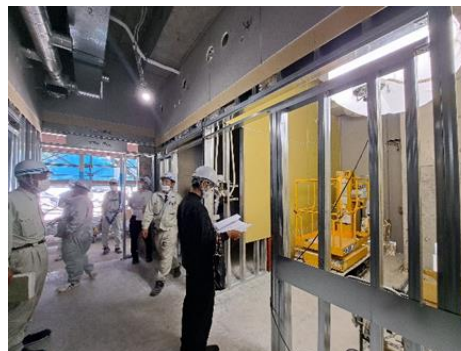
# 大阪病院：建設工事は順調に進捗

- 2023年2月の完成に向け、建設工事は順調に進捗
- 外部工事、内部工事ともおおむね予定通りに進んでおり、11月下旬より仕上げにかかる見込み

建設現場全景



建設現場視察



# 大阪病院概要

大阪病院完成予想図



所在地	大阪府箕面市船場3丁目
敷地面積	2,962.92m <sup>2</sup>
延床面積	1,952.38m <sup>2</sup>
建物構造	鉄骨鉄筋コンクリート造3階建
竣工予定	2023年2月

- 拠点拡大の一環として、獣医師や動物看護師などの増員を図る計画
- 優秀な人材確保に向けて、積極的な採用活動を継続

## 人材確保

### 優秀な人材の確保

- 大学・専門学校・各種団体との関係性強化、人脈形成に尽力
- 採用特設サイトを刷新
- その他採用活動を積極的に実施



### 従業員の育成

- 全科ローテーション研修プログラムの実施  
(農林水産大臣指定の小動物臨床研修診療施設)
- 症例検討会、各種講習会、臨床・病理検討会の活用
- 豊富で多彩な症例と手術数/専門診療科による高度医療の習得



## 役割の拡大

### 動物看護師の国家資格化 (愛玩動物看護師)

動物看護師の国家資格化による  
役割の拡大、獣医師の負担軽減

業務の効率化・生産性の向上



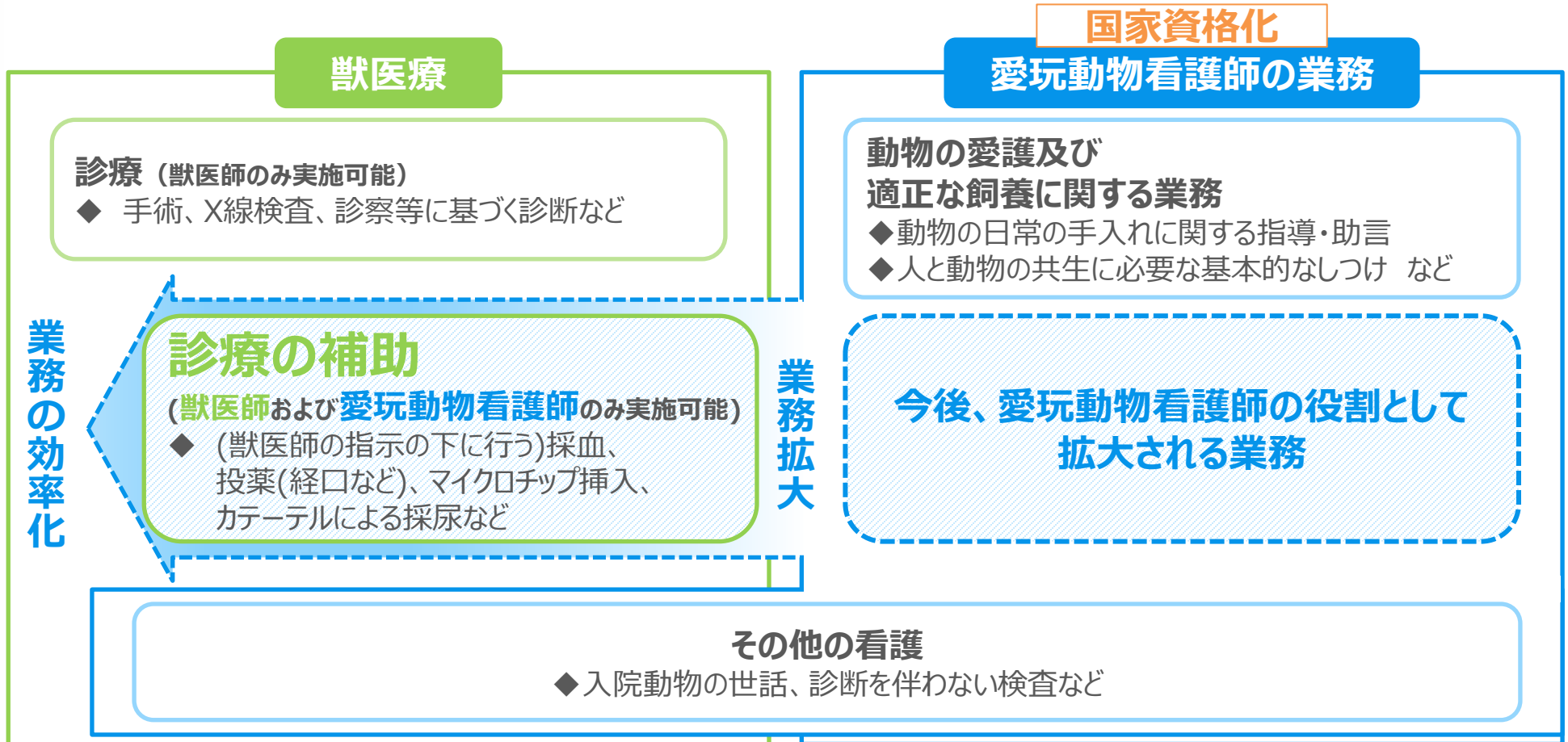
出所：農林水産省/環境省  
新しい国家資格「愛玩動物看護師」ができました！  
(パンフレット)



# 愛玩動物看護師の国家資格化による業務の効率化

- 2019年6月の愛玩動物\*看護師の国家資格化の決定に伴い、愛玩動物看護師の役割の拡大および獣医師の負担軽減に繋がり、業務の効率化や生産性の向上が期待される
- 第1回愛玩動物看護師国家試験は、2023年2月中旬に実施される予定

\*獣医師法第17条に規定する飼育動物のうち、犬、猫、その他政令で定める動物（オウム科全種、カエデチョウ科全種、アトリ科全種）



## 事業領域の拡大

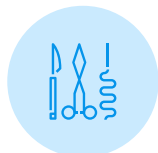
- 患者動物・飼い主に寄り添い、一次診療施設を多方面からサポート



診療外領域においても利便性を高めるシステムやサービスの開発・販売を検討



- 動物医療に関連した事業の買収を積極的に推進



医療機器



保険



ペットフード



医薬品

## 活動量計「プラスサイクル」を使用した取り組み



- 動物の日常の活動量を測定し、動物の「元気」を「可視化」



一次診療施設（動物病院）経由での拡販を目指し、普及促進



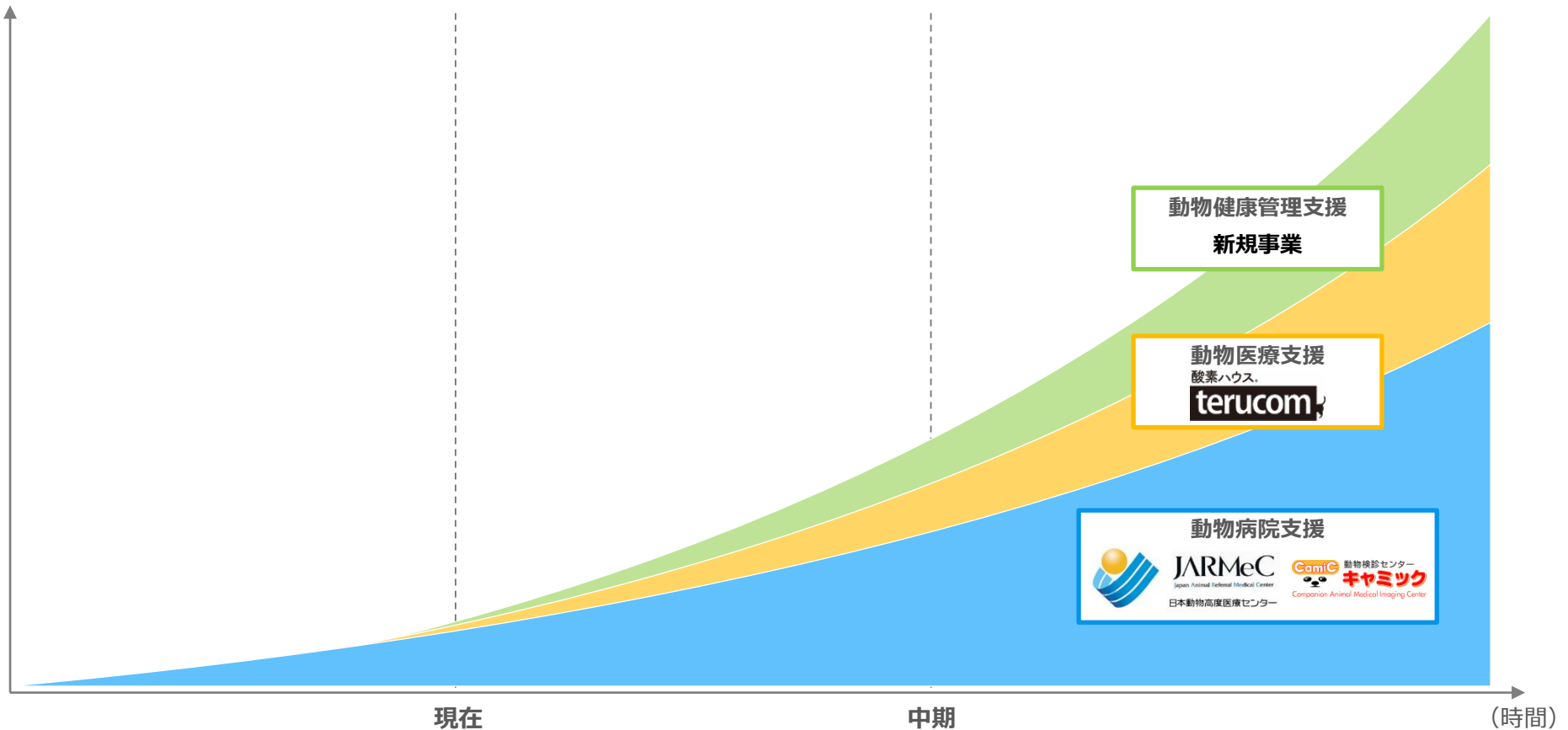
複数の企業との協業を加速

## 動物医療業界における総合的企業へ

# 中長期成長イメージ

- 短中期では、二次診療動物病院の拠点を全国的に展開しつつ、動物医療に関連する事業買収等の新規事業取り組みにも着手。一次診療施設との連携を強化し、既存事業の拡大を図る
- 長期的には、事業領域を動物の健康管理等多方面に広げ、動物医療業界における総合的企業としての地位確立を目指す

(事業規模)







**JARMeC**  
Japan Animal Referral Medical Center  
日本動物高度医療センター

# appendix



# 会社概要

会社名	株式会社 日本動物高度医療センター
	Japan Animal Referral Medical Center : JARMeC
主要な事業内容	犬・猫向けの高度医療（二次診療）を行う動物病院
所在地	川崎本院 : 神奈川県川崎市高津区久地 2-5-8 名古屋病院 : 愛知県名古屋市天白区鴻巣 1-602 東京病院 : 東京都足立区一ツ家 3-1-7 大阪病院 : 2023年3月に開業予定
設立年月日	2005年9月26日
資本金	385百万円
代表取締役社長	平尾 秀博
従業員数	275名（非常勤35名を含む）※グループ全体（2022年9月末現在）
関連会社	株式会社 キャミック （高度医療機器を用いた動物の画像診断センター運営） テルコム株式会社 （動物用酸素濃縮器等の製造・販売・貸与）  

# 沿革

- 2005年9月 ○ 株式会社日本動物高度医療センターを設立
- 2007年6月 ○ 川崎本院を神奈川県川崎市高津区に開業
- 2009年3月 ○ 「小動物臨床研究診療施設」として民間で初めて農林水産大臣の指定を受ける
- 2011年12月 ○ 名古屋病院を愛知県名古屋市天白区に開業
- 2014年1月 ○ 株式会社キャミックを子会社化
- 2015年3月 ○ 東京証券取引所マザーズ市場に上場（動物病院として初の上場会社）
- 2017年6月 ○ キャミックひがし東京を東京都江戸川区に移転開業
- 2018年1月 ○ 東京病院を東京都足立区に開業
- 2022年2月 ○ キャミック城北を埼玉県さいたま市南区に移転開業
- 2022年3月 ○ テルコム株式会社を子会社化
- 2022年4月 ○ 東京証券取引所グロース市場に移行
- 2023年2月 ○ 大阪病院の完成見込

病院の区分	 JARMeC Japan Animal Referral Medical Center	獣医科大学病院	単科二次診療所
休診日	年中無休	土日祝・夏季・年末年始休業	365日営業が難しい
診療科数	11	10~19	1
競合の状況	以下に記載	学生の教育・研究に重点 急患対応が難しい	総合診断の対応が難しい 大型投資が難しい

## JARMeCが提供する高品質なサービス

### 高度医療機器

獣医科大学病院と同等あるいは以上の設備を揃える

### 柔軟な受入対応

年中無休、予約の速さ（原則当日または翌日の受入を目指す）、  
簡便さ（紹介医の電話による受入が可能）は好評

### チームによる診療体制

専門診療科において複数の獣医師・スタッフによるチーム医療を実践。  
必要に応じて複数の診療科が協力して対応

＜見通しに関する注意事項＞

当資料に記載されている内容は、いくつかの前提に基づいたものであり、将来の計画数値や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。

＜お問い合わせ先＞

株式会社日本動物高度医療センター  
管理部 企画課 IR担当  
044-850-1320  
e-mail : ir@jarmec.jp